

石廊崎ジャングルパーク跡地 利用計画策定ワークショップ通信

No.1

問合せ 南伊豆町企画調整課

☎62-6288 FAX62-1119

E-mail kikakuc@town.minamiizu.shizuoka.jp

第1回石廊崎ジャングルパーク跡地利用計画策定ワークショップを開催しました。

ワークショップ スタート

岩崎産業株式会社との裁判が終わり、石廊崎ジャングルパーク跡地の一部が町の土地になったことから、利用計画策定のため、11月22日（金）午後6時30分から午後9時00分まで、役場湯けむりホールで、公募者を含む総勢30人で第1回ワークショップが開かれました。



ワークショップ設置要綱の説明のあと、当該場所は和解により取得した土地であるためいくつかの条件があることや自然公園法や文化財保護法による法規制が厳しいことから、町企画調整課から裁判の経過・和解条件の説明、環境省自然保護官から自然公園法の説明、町教育委員会事務局から文化財保護法の説明に続き、千葉大学木下勇教授がアドバイザーとして参画し、ワークショップの意義や手法等について講義のあとグループごとにバズセッションを行い、石廊崎にかかるそれぞれの思いを発表し合いました。



グループ討議・発表の様子

- A 何もないからすごいといった視点や、ヤオヨロズの神々が住む岬として、石廊神社伝説などのロマンを生かして自然を守り、音楽イベント広場など、リピーターも含めて人が寄り、地元の売り上げも上がり、滞在できる場所としたい。
- B 海から見た花咲く石廊崎を理想とし、駐車場をつくり、ジオを売りに、石廊神社や白水城を活用して、上と下がバランスよく発展してほしい。
- C 駐車場やトイレ、食事場所など最低限の施設をつくり、景観を生かして子供も大人も年配の方も誰でも楽しめる場所としたい。
- D ジャングルパーク閉園の原因を参考にして、自然・ジオパークを生かしつつ、道路をつくり、情報発信し、雇用促進、交流人口の増加につなげたい。

E ランニングコストが低い、持続可能な自然を生かして、イベントを企画して、観光につなげ産業発展、雇用促進を図りたい。

全体意見交換

意見：ワークショップの手法は素晴らしい。これだけ大人数の意見を聞く手法としては最適。

質問：自然のままと言う意見と何とか発展させたい意見があり、ギャップがある。

回答：人に来て貰いながらも自然が保たれる従来とは英知が必要。自然を学ぶこと、子供に自然の重要性を教えること、地域の人たちが誇りに思うこと、環境維持していくこと、環境を学ぶ仕掛けをつくること、ギャップを埋める装置をつくるなどを検討していく必要があります。



第2回目は、12月20日午後1時30分から石廊崎の現地視察をしながらワークショップを開催しました。

利用計画の提案募集

町では、石廊崎ジャングルパーク跡地の利用について、ワークショップ以外の方法でもご提案やご意見を募集します。様式等は問いませんので、氏名、年齢、住所、電話番号を記載のうえ、ご提案をお寄せください。（メール、FAX可）

募集期限 平成26年1月31日（金） 提出先 企画調整課（上記問合せ先まで）